

JA筑紫「ちくし農業塾」開講式



JA筑紫は7月1日、筑紫野市のJA物流センターで第12期「ちくし農業塾」開講式を開き、11カ月間に及び講義がスタートしました。

塾生9名は、30～60代と幅広い世代。習得した知識や技術を生かし、JA直売所の出荷者や生産部会の一員となる販売農家を目指します。

式には、行政関係者やJA役職員など14名も参加。塾生は「農業を一から学び、自信を持って出荷できる野菜を作りたい」など一人ひとり抱負を述べました。講師を務める室園正敏さんは「目標を持って11カ月間を有効に活用してほしいです」と挨拶しました。

白水組合長は「農業塾で農業の基礎を学び、ゆめ畑などへの出荷や、食料自給率向上へ貢献してほしいです」と塾生を激励しました。

JA筑紫は、新規就農者や農業後継者の育成を目的に、露地野菜や施設園芸についての実習・講義を行う「ちくし農業塾」を2011年度から開講。第1期から11期までに107名が修了し、直売所出荷者や生産部会員などとして活躍しています。

JA筑紫女性部「SDGsと食品ロスセミナー」



JA筑紫御笠支店女性部は7月7日、JA御笠支店で「SDGsと食品ロスセミナー」を開きました。JA職員や部員など26名が参加。

セミナーでは、家の光協会の岩本航さんを講師に招き「家の光から考える JA女性組織とSDGs」を演題に講演。SDGsの内容や、食品ロスの現状などを説明しました。

参加した女性部員は、真剣にメモを取りながら、聴き入りました。

JA女性部では持続可能な社会の実現を目指し、今後もSDGsに貢献する活動を継続的に行います。

稲作中間管理講習会



JA筑紫は、管内56カ所で、6月23日～7月15日まで9日間の日程で、2022年度稲作中間管理講習会を開きました。適正な栽培管理を呼びかけ、高品質な米作りを目指します。

那珂川市別所地区では8日、組合員とJA職員など13名が参加しました。気象と生育状況を踏まえた栽培管理や、病害虫対策などをJA営農生活部職員が説明。参加者は、真剣な表情で資料に目を通しながら説明を聞き、水の管理などについて質問しました。

営農生活部職員は「これからの作業を安全に行い、高品

質な米づくりに努めてほしいです」と話しました。

栄養満点の料理で夏を乗り切る



JA筑紫那珂川支店女性部は7月11日、夏料理教室を開きました。2部構成で部員23名が参加。

今回のメニューは、JAグループファミリー雑誌「家の光」の記事を活用した「鶏肉とカボチャのニラだれ」や「ミョウガずし」など5品。栄養もボリュームも満点で夏にぴったりのメニューです。部員達はメニューを分担し手際よく調理しました。

参加した部員は「自宅でも作って、暑い夏を乗り切りたいです」と笑顔で話しました。

秋冬野菜栽培講習会



JA筑紫は、7月14日と20日の2日間に、大野城、太宰府、筑紫野、春日・那珂川地区で3年ぶりに秋冬野菜栽培講習会を開きました。JA筑紫農産物直売所ゆめ畑の出荷者51名が参加しました。

JA営農生活部農業振興課の林園芸指導員や種苗会社の社員が講師を務め、気象状況や農作物の現状の他、今後の管理について説明しました。

林園芸指導員は、「それぞれの野菜の特性に気を付けて栽培してほしいです」と話しました。

講習会は、技術の向上を図り、消費者へ安定的な野菜供給を目指すことが目的。春夏・秋冬ごとの講習会の他にそれぞれの野菜の品種紹介をするなど、出荷量増加にもつなげています。

二セ電話詐欺被害防止に貢献し表彰を受ける



JA筑紫は7月15日、福岡県庁で開かれた第8回二セ電話気づかせ隊推進委員会で団体表彰を受けました。

JAは金融店舗や直売所などの施設での啓発活動や、地域住民宅へ訪問し注意喚起を行うなど二セ電話詐欺被害防止に貢献したことが評価されました。表彰式で、服部誠太郎県知事からJAの船越専務が表彰状を受け取りました。表彰式後には、受賞団体を代表して活動事例の発表も行いました。

JAはこれからも二セ電話詐欺を未然に防ぐため、利用者に積極的に声を掛け、のぼり旗や広報誌などでの注意喚起を行い被害防止に取り組みます。

農業用ドローン実演会



J A筑紫は7月26日、農業用ドローンの実演会を筑紫野市西小田の圃場で開催しました。生産者や行政関係者、J Aの営農生活部職員など16名が参加しました。

実演会では農業用ドローンによる農薬散布の実演の他、機体の特徴や飛行時の注意事項を説明した後、質疑応答を行いました。

参加した生産者は、実演を興味深く見つめ、積極的に質問を行いました。

J Aではドローンの活用による農作業の省力化や生産性の向上を目指し、今後も農業用ドローンの実演会や農薬の試験散布を行う予定です。